

診療技術部門の
リハビリテーション療法科
新人教育について
(新人教育プログラム)
2020年版



公益財団法人

筑波メディカルセンター

TSUKUBA Medical Center Foundation

目次

- ・新人教育にあたって
法人診療技術部門長 挨拶
- ・組織図
- ・法人教育・研修委員会主催新人オリエンテーション内容(2020年度実績)
- ・各科(課)のプログラム
○リハビリテーション療法科-----P.4

新人教育にあたって

法人診療技術部門長の挨拶

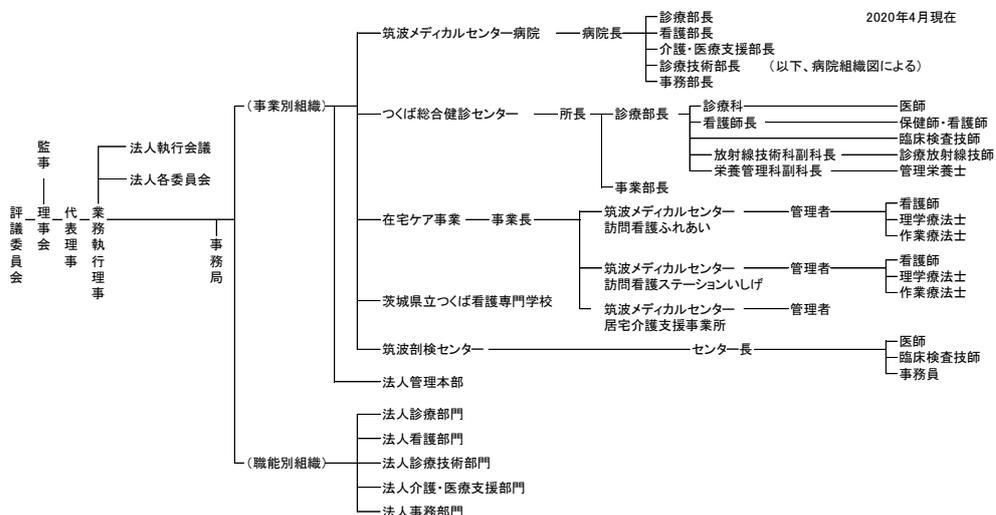
この度はご入職いただき、ありがとうございます。心から歓迎いたします。

さて、みなさんは国家資格を保有した専門職ですが、まだスタートラインに立ったに過ぎません。これからいろいろな経験や学習をし、一人前の医療者になっていかれますが、きちんとやっていけるのか不安だと思います。でも安心してください。新入職員を育てるのは我々の責務です。そこで、誰もが同じように成長できるよう、教育プログラムを作成しました。我々はこの教育プログラムに沿って精一杯指導をし、みなさんの成長の手助けをしますので、それにお応えいただき、より多くのことを習得いただければ幸いです。

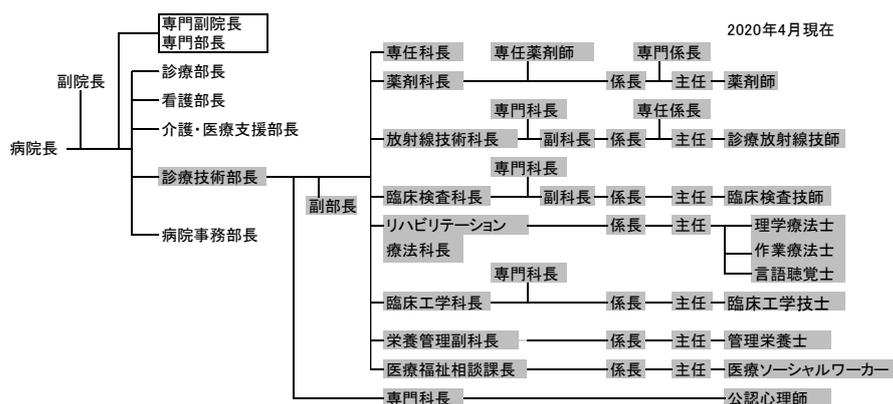
法人診療技術部門長 飯村 秀樹

組織図

公益財団法人筑波メディカルセンター組織図



筑波メディカルセンター病院組織図



法人教育・研修委員会主催新人オリエンテーション内容(2020年度実績)

研修期間 7日間

研修内容

- 1日目 公益財団法人紹介、各事業部署紹介、各部門紹介、臨床研修医制度紹介
- 2日目 避難訓練、BLS/AED、健康診断、部門間体験
- 3日目・4日目 外部講師講義(フレッシュパーソン研修)
- 5日目 接遇・マナー研修、BLS/AED、健康診断、部門間体験
- 6日目 労働安全衛生管理講義、個人情報保護講義、ハラスメント研修、医療制度講義
チーム医療講義、勤怠管理システム操作説明
- 7日目 医療安全・感染管理講義、ストレスマネジメント研修、人事評価制度説明
福利厚生説明

リハビリテーション療法科

1. 概要(オリエンテーション)

新人が一人前の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として能力を十分発揮できるように、効率的、集中的に教育を行い、病院に貢献できる人材に育てる一助となることを目的としている。

そして、各療法士として採用された職員が自己研鑽を積み、患者や他の医療スタッフからも信頼されることを目指している。

内容としては、各部門別の経験年数教育について記述している。1年目、2年目における当院のリハビリテーション療法科での役割を記載している。

2. 教育項目

1年目

1. 庶務に関わるもの

- ・出勤・退勤管理
- ・リハビリ室の鍵の取り扱い
- ・公用車の使い方
- ・休暇の取り方
- ・研修会・出張申請
- ・残業申請方法

2. 各対応に関わるもの

- ・電話対応について
- ・患者さんの送迎方法
- ・緊急時対応
- ・事故後の対応について
- ・感染対策について

3. 診療に関わるもの

- ・診療報酬について
- ・各担当グループについて
- ・週間業務スケジュールについて
- ・カンファレンスについて(診療科・病棟)
- ・オーダーリングシステムについて
- ・リハ部門システム(タック)について
- ・依頼箋・外来継続について
- ・予約の取り方について
- ・カルテ記載について
- ・コスト入力について
- ・リハビリ総合実施計画書について
- ・退院・転院時の報告書について
- ・年末年始出勤を行う

2年目 休日体制日の出勤ができる

3. 習得目標期間・タイムスケジュール

2年を目安に一通りの疾患を経験し、休日体制日の出勤ができるようにする

【共通事項】

1年目

- ・基本的な理学療法、作業療法、言語聴覚療法を、3年目以上のスタッフから指導・助言を受けて遂行できる
- ・職員としての規律を遵守できる
- ・職業倫理を身につける
- ・自己学習の習慣を身につける
- ・他職種の特徴を把握し、チームアプローチの重要性を理解する
- ・リスク管理についての知識を高める

2年目

- ・基本的な理学療法、作業療法、言語聴覚療法を、3年目以上のスタッフから適宜指導を受けて遂行できる
- ・自己学習を継続できる
- ・他職種連携、チームアプローチを実践できる

その他

- ・新人教育プログラム、症例発表、認定プログラム等の履修を推奨する
- ・院外研修は、年間計画の目標に合わせ業務に支障のないよう上司と相談した上で参加する
- ・認定、専門領域については各個人の判断が良いが、登録・受験の際は上司に報告する
- ・研修後は、必要に応じて科内やチーム内などで伝達講習をする
- ・臨床研究を積極的に推奨する。ただし、倫理的な配慮を十分に行うこと
※症例報告・臨床研究を行う際は、必ず上司に報告すること

【理学療法部門】

1年目

- ・担当疾患は脳神経外科、整形外科を主体に担当する

2年目

- ・担当疾患は脳神経外科、整形外科に加え呼吸器疾患、循環器疾患、がん患者を担当する
- ※担当疾患は配置されたフロアによって異なる
- ※2年目以降は在宅部門にローテーションすることがある

【作業療法部門】

1年目

- ・担当疾患は脳神経外科、整形外科を主体に担当する。状況によっては救急診療科、総合診療科・呼吸器疾患(がんを除く)を担当する場合もある

- ・3年目以上のスタッフから指導・助言を受けて、外来リハビリテーションを担当する
- ・年末年始の出勤に向けて、経験していない疾患の初期評価を行えるようにする

2年目

- ・担当疾患は1年目で経験していない疾患を主体に、脳神経外科、整形外科、救急診療科、総合診療科、呼吸器疾患(がんを除く)を担当する。
- ・がん・循環器領域は状況に応じてリーダーの判断で担当する
- ・休日体制日の出勤に向けて、経験していない疾患の初期評価を行えるようにする
- ・1年目の業務フォローを行えるようになる

【言語聴覚療法部門】

1年目

- ・担当疾患は脳神経外科、総合診療科、呼吸器内科を主体に担当する
- ・初診時は、3年目以上のスタッフが同行し、指導する
- ・関連委員会(NST/摂食・嚥下)を見学する
- ・小児外来の見学と集団療法の補助を行う

2年目

- ・担当疾患は、救急診療科、整形外科、循環器内科、がんの領域を担当する
- ・発達障害児等、小児の外来を担当する

4. 研修プラン

- ・月1回科内勉強会(診療報酬・感染・安全・訪問リハビリテーション領域など)
- ・有志で触診勉強会、リスク管理勉強会、文献抄読会など
- ・他院回復期リハビリテーション病棟の見学
- ・院外研修(グループリーダーから推奨する研修もあり)

5. 認定資格・取得者数(2019年10月現在)

- ・心臓リハビリテーション指導士 5名
- ・呼吸療法認定士 13名
- ・介護支援専門員 20名
- ・専門理学療法士 1名
- ・認定理学療法士 3名
- ・認定言語聴覚士 2名
- ・認定訪問療法士 1名

作成日 : 2020年8月

作成 : 診療技術部教育委員会

編集担当者 : 池田・石黒・糸賀・江口・中川・村田